

令和6年度 第5回
函館市子ども・子育て会議
会議録（要旨）

日時 令和6年(2024年)12月23日(月)
午後6時30分～
場所 函館市勤労者総合福祉センター
サン・リフレ函館 2階 大会議室

1 出席者

(1) 委員 16 人

天野委員	(函館保育協会)
池田委員	(函館大妻高等学校)
石坂委員	(函館市医師会)
数又委員	(函館市民生児童委員連合会)
川村おさむ委員	(函館市私立幼稚園協会)
木村委員	(函館市社会福祉協議会)
高野委員	(函館市ファミリー・サポート・センター)
高橋委員	(連合北海道函館地区連合会)
館山委員	(公募)
玉利委員	(道南地区私立幼稚園連合会)
西村委員	(函館商工会議所)
野口委員	(函館市小学校長会)
畑委員	(函館市町会連合会)
浜委員	(北海道函館児童相談所)
山口委員	(函館市中学校長会)
吉増委員	(函館市学童保育連絡協議会)
欠席：川村幾代委員	(函館短期大学)
成田委員	(公募)
本田委員	(函館大学)
山崎委員	(函館市PTA連合会)

※ () 内は所属団体等

(2) 事務局 8 人

宿村子ども未来部長，東出子ども未来部次長，蒲生子ども企画課長
平野子どもサービス課長，大坂子育て支援課長，田中子ども見守り・相談課長，
三上子ども健やか育成課長，高橋母子保健課長

(3) 傍聴者 2 人

2 配布資料

資料 1 - 1	第 2 期函館市子ども・子育て支援事業計画に基づく施策の実施状況
資料 1 - 2	教育・保育および地域子ども・子育て支援事業の提供体制
資料 2	函館市こども計画（素案）
資料 3	函館市こども計画素案の主な修正箇所
資料 4	計画策定スケジュール

3 会議録

発言者	発言要旨
-----	------

1 開会

【事務局】 (開会宣言)

交通事故の死傷者数の減少に改めております。

それから、後ほど改めてご説明いたしますが、前回の会議でご指摘ありました、施策の方向3の「男は仕事、女は家庭」という考え方についても、現計画では、「反対」が増加することを目標として設定しているのですが、そのような考え方自体がどうなのかというご指摘もいただきましたので、このたびのこども計画では改めることといたしました。

【池田会長】

今回が今年度最後の会議ということなんだけれども、交通安全課のことについては、正副会長と事務局で話し合っ解決していくということで良いですか。

【木村委員】

はい。なかなか難しい問題なのでね、これから交通安全に努めるということになるんだろうと思うんですけども、どのように広めていくのかが、市の交通安全課で見えてこないのかなと。

【池田会長】

今の部分は市と正副会長で話をして結論を出していきたいと思えます。新しい計画の方では変えていくということなので、今回はご理解ください。

ほかに質問ありますか。

【浜委員】

資料1-1の6ページの「④保育所等における障がい児保育」で、施設数と利用者数が書かれていますが、希望者全員が該当しているのかわからないのと、障がいのあるお子さんが、現実的には児童発達支援事業所に行っていて、実際の保育所には障がいのあるお子さんは入園していないのかということがわからないので、その点について教えていただきたいと思いました。

【事務局（平野課長）】

こちらは市の療育支援事業費補助金の補助申請を受けて補助している実際の施設の件数になりますので、市の事業以外で、各園独自で障がいのある子を保育している部分については、こちらには盛り込んでいないところであります。

【池田会長】

ほかに質問ありますか。

【高橋委員】

資料1-1の19ページ「②学力向上推進事業」のアフタースクールのところですが、実際のところ、コロナ禍で、学校に地域の方々が入って来れない状況ということで、中止していた部分があったかと思うんですよね。それが再開という見通しになって、ここ2年の実績では小学校38校あるうち、稼働しているのが11校ということで、今度のこども計画にどのように位置づけていくのかというのは難しい状況にあるのかなとは思っています。教員不足もありますので講師というかたちになってしまうし、意識の部分も広げていくのには課題があるのかなと思っはいるんだけど、現場としては、アフタース

クール事業などに参加している子どもたちも数多くいるのが現状なので、推進計画の方の今後の見通しの部分の中でこういった働きかけが考えられるのかお聞きしたいなと思います。

【事務局（蒲生課長）】 コロナ禍や講師不足により実施校が増えていないという現状であります。教育委員会にも確認しておりますが、今後、対象校を拡大していくことを考えてはございませんでして、学習支援というところで、本市の厳しい財政状況も踏まえまして、子ども未来部でも町会館などで学習支援を行っておりまして、子ども未来部と教育委員会で連携して、類似する事業のあり方について、協議を進めてまいりたいと考えております。

【高橋委員】 なかなか難しい部分があるかなと思うので、例えば、児童館を活用したり、いろいろな子どもたちが地域で学ぶ場があったりとか、学ぶだけではなく地域の人と関わりをもつということも非常に大きな中身かなと思っているので、ご説明があった部分については、聞き取っておこうかなと思います。

【事務局（蒲生課長）】 こども計画の中でも、資料2の157ページの「総合的な子どもの居場所づくりの検討」で記載しておりますが、学習支援や遊びの提供、アフタースクール、学童、放課後子ども教室、そのほか民間の取組みなどもございますので、各地域における多様な子どもの居場所づくりを、こういった居場所があるべきかも含めて総合的に次期計画の中で進めていきたいと考えております。

【池田会長】 ほかにありますか。
ないということなので進捗状況については、ここで終わりたいと思います。

(2) 函館市こども計画（素案）について

【池田会長】 続きまして、議事の「(2) 函館市こども計画（素案）について」、事務局から説明願います。

【事務局（蒲生課長）】 （資料2～4に基づき説明）

【池田会長】 ここは今まで議論してきたことでしたが、質問があれば挙手をお願いします。

【川村おさむ委員】 最近、新聞で私立幼稚園が令和7年3月末をもって閉園するという報道が出ていました。前回までの話し合いの中で、この閉園に関する発表はなかったわけですから、今回、確保方策でこの数値がおそらく反映されていないと思います。実際に計画を発表される際には、この1園が閉園になったことによる確保方策の数値の反映はあるのでしょうか。

【事務局（蒲生課長）】 閉園が完全に決定した段階で、計画の策定期間にもよりまずけれども、反映できるタイミングであれば反映したいと思いますし、3月の計画決定までに反映できなければ次年度以降の進捗状況の中で修正させていただきたいと思います。

【池田会長】 ほかにございますか。

【浜委員】 資料2の138ページの児童育成支援拠点事業と親子関係形成支援事業について、令和9年度からの確保方策ということで書かれているのですが、まだはっきりしていないのかもしれませんが、市が直営で実施しようとしているのか、民間の事業者へ委託して実施しようとしているのか、そのあたりを教えてくださいたいと思います。

【事務局（蒲生課長）】 児童育成支援拠点事業は事業者へ委託しようということで考えております。国が示している基準などによりますと、保育士や精神保健福祉士などの有資格者の配置が必要であったり、子どもが集まることのできる専用スペースを必要としますことから、事業を実施するために必要な基準を満たすことのできる事業者を選定していく必要があると考えております。

親子関係形成支援事業は直営か委託かまだ決定しているものではございません。親子関係形成支援事業は対象となる親子について公募することを前提に考えておりますけれども、児童育成支援拠点事業は、養育環境に課題のある子ども、衣服の乱れや食事が適切に取れないなど基本的な生活習慣の形成が必要と認められる児童を対象とする事業ですけれども、そういった児童育成支援拠点事業の利用児童も親子関係形成支援事業の対象として含むことも検討しておりますので、児童育成支援拠点事業の検討に合わせて親子関係形成支援事業の内容についても検討していく必要があると考えております。

【池田会長】 ほかに質問や意見は、ございませんか。
ないようなので、「3 その他」に入りたいと思います。

3 その他

【池田会長】 先ほども申し上げましたが、委員の皆さまから、意見や質問があった場合、正副会長と事務局で協議して決定していくというかたちにしたいのですが、それでよろしいでしょうか。

（異議なし）

ご承認いただきましたので、そういうかたちで進めていきたいと思います。

それでは、事務局から何かございますか。

【事務局（蒲生課長）】 本年度の会議については、本日で終了となります。今後の計画策定のスケジュールは先ほど説明したとおりですが、今後、完成した計画などについては、適宜、情報提供した

いと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

4 閉会

【池田会長】

それでは私の会長の任務も本日で終了となります。円滑な審議にご協力いただき、ありがとうございました。

それでは、最後に事務局から一言お願いします。

【事務局（宿村部長）】

子ども未来部の宿村でございます。それでは、今年度最後の子ども・子育て会議の閉会にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

委員の皆様には、大変お忙しい中、ご出席をいただき、毎回、活発に意見などが交わされ、実り多き会議としていただきましたことに、厚くお礼申し上げます。お陰をもちまして、令和7年度から新たにスタートいたします「函館市子ども計画」の素案を取りまとめることができました。心から感謝申し上げます。

今後は、市におきまして計画策定の準備を進めてまいります。先ほど課長からご説明申し上げましたとおり、市議会への報告やパブリックコメント手続きなどを行ったうえで、来年の3月には、正式に計画として策定し、公表する予定となっております。委員の皆様には、計画策定後も、その実施に関して、調査審議等を行っていただくこととなりますので、引き続き、お力添えを賜りますよう、よろしくお願いいたします。

結びにあたり、委員の皆様の今後ますますのご活躍を祈念いたしますとともに、函館のすべての子どもたちの幸せを心から願ひ、簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。

長期間にわたり、本当にありがとうございました。

【池田会長】

それでは、以上をもちまして、会議の終了を宣言したいと思います。皆さまありがとうございました。